

調査結果

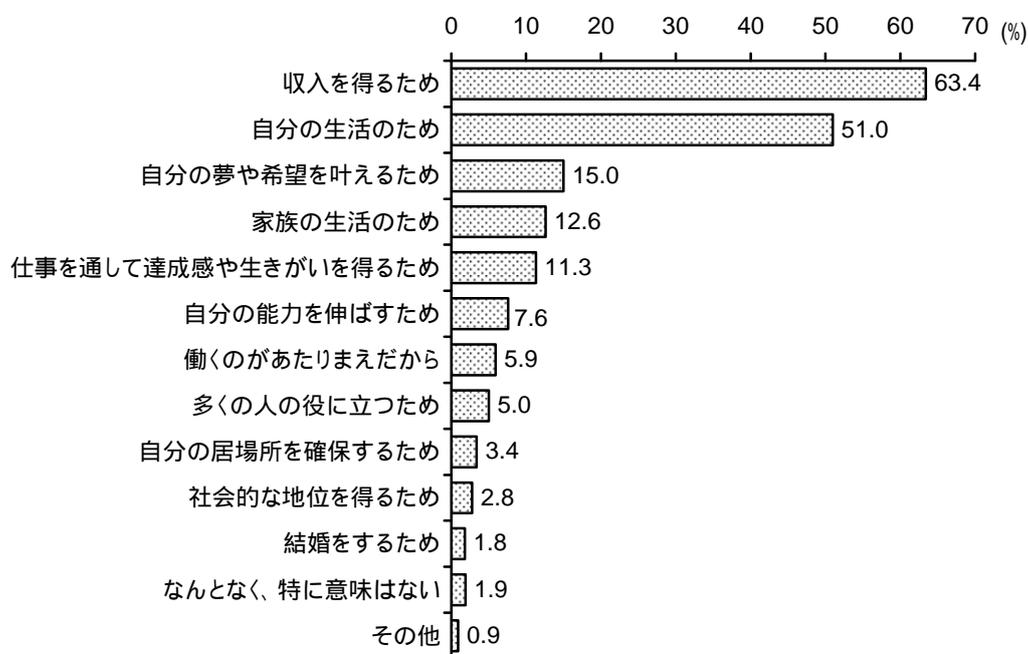
1. 仕事について

Q1. あなたは、主として、何のために仕事をするのですか。(2つまで選択可)

(1) 仕事の目的

仕事の目的は、「収入を得るため」が 63.4%で最も高く、次いで「自分の生活のため」51.0%、「自分の夢や希望を叶えるため」15.0%、「家族の生活のため」12.6%、「仕事を通して達成感や生きがいを得るため」11.3%などとなっている。

図 2-1-1 仕事の目的

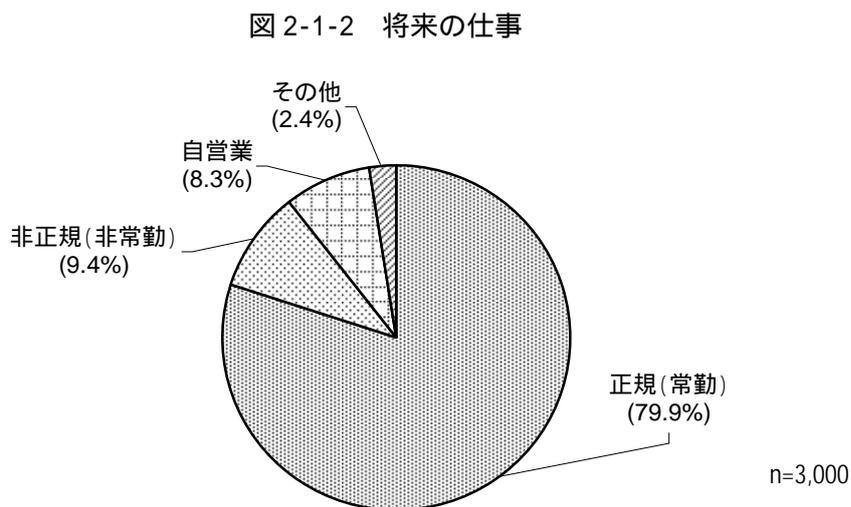


n=3,000

Q2. あなたは、将来どのような仕事をしたいですか。(すでに就職している方は、現在と同じ仕事でも結構です。)Q2-1.その仕事の形態は(1つ選択)

(2) 将来の仕事

将来の仕事は、「正規(常勤)」が 79.9%、「非正規(非常勤)」9.4%、「自営業」8.3%となっている。

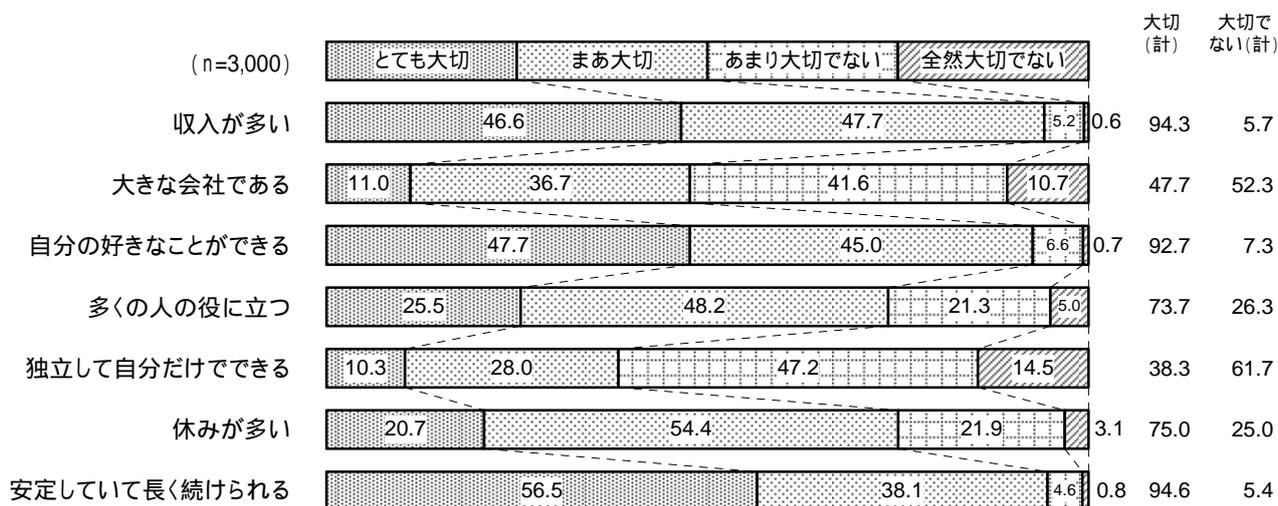


Q2-2. 仕事を選ぶ理由として何がどれくらい大切ですか。以下のそれぞれについて、とても大切、まあ大切、あまり大切でない、全然大切でない、のうちから一つ選んで教えてください。

(3) 仕事を選ぶ理由

仕事を選ぶ上で重視していることは、5項目で『大切(計)』(「とても大切」+「まあ大切」)の割合が『大切ではない(計)』(「あまり大切でない」+「全然大切でない」)の割合を上回っており、「安定していて長く続けられる」94.6%、「収入が多い」94.3%、「自分の好きなことができる」92.7%、「休みが多い」75.0%、「多くの人の役に立つ」73.7%となっている。一方『大切ではない(計)』の割合が『大切(計)』の割合を上回っているのは「独立して自分だけでできる」61.7%、「大きな会社である」52.3%となっている。

図 2-1-3 仕事を選ぶ理由



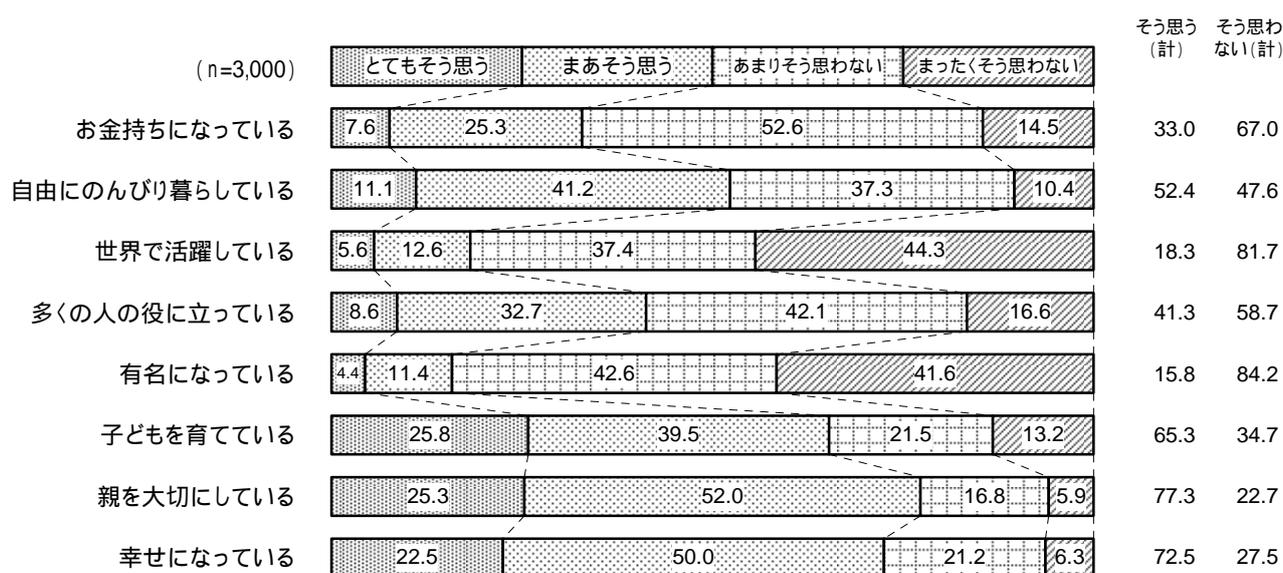
2. 自分の将来像について

Q3. あなたが40歳くらいになったとき、どのようになっていると思いますか。以下のそれぞれについて、とてもそう思う、まあそう思う、あまりそう思わない、まったくそう思わない、のうちから一つ選んで教えてください。

(1) 将来の自分の姿

40歳くらいになった将来の自分の姿は、4項目で『そう思う(計)』(「とてもそう思う」+「まあそう思う」)の割合が『そう思わない(計)』(「あまりそう思わない」+「まったくそう思わない」)の割合を上回っており、「親を大切にしている」77.3%、「幸せになっている」72.5%、「子どもを育てている」65.3%、「自由にのんびり暮らしている」52.4%となっている。一方『そう思わない(計)』の割合が『そう思う(計)』の割合を上回っているのは「有名になっている」84.2%、「世界で活躍している」81.7%、「お金持ちになっている」67.0%、「多くの人の役に立っている」58.7%となっている。

図 2-2-1 将来の自分の姿



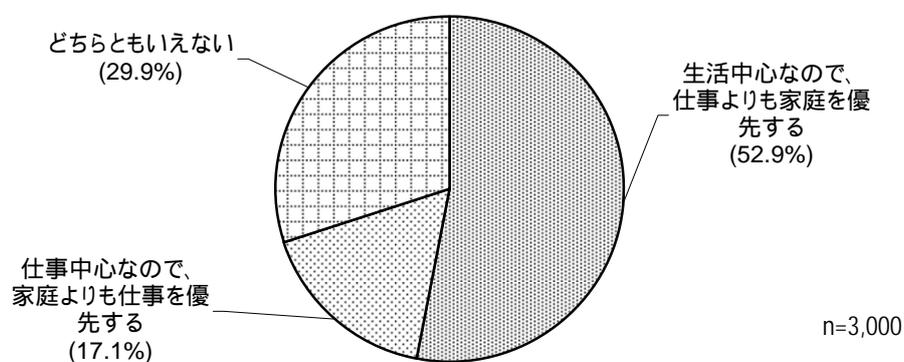
3. 仕事と家庭のバランスについて

Q4-1. あなたは、仕事と家庭のどちらを大切にしたいですか。また、その関係についてどう考えていますか。(1つ選択)

(1) 仕事と家庭のバランス

仕事と家庭のどちらを優先したいかは、「生活中心なので、仕事よりも家庭を優先する」が52.9%、「どちらともいえない」29.9%、「仕事中心なので、家庭よりも仕事を優先する」17.1%となっている。

図 2-3-1 仕事と家庭のバランス

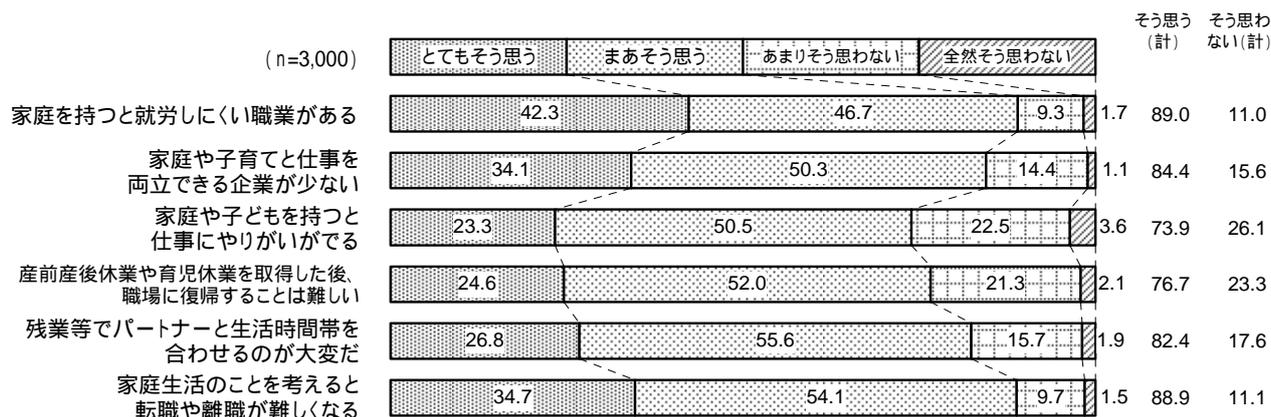


Q4-2. 仕事と家庭との関係についてどう思うか、以下のそれぞれについて、 とてもそう思う、まあそう思う、あまりそう思わない、全然そう思わない、のうちから一つ選んで答えてください。

(2) 仕事と家庭との関係

仕事と家庭との関係は、6項目すべてで『そう思う(計)』(「とてもそう思う」+「まあそう思う」)の割合が『そう思わない(計)』(「あまりそう思わない」+「全然そう思わない」)の割合を上回っており、「家庭を持つと就労しにくい職業がある」89.0%、「家庭生活のことを考えると転職や離職が難しくなる」88.9%、「家庭や子育てと仕事を両立できる企業が少ない」84.4%、「残業等でパートナーと生活時間帯を合わせるのが大変だ」82.4%、「産前産後休業や育児休業を取得した後、職場に復帰することは難しい」76.7%、「家庭や子どもを持つと仕事にやりがいがある」73.9%となっている。また、『そう思わない(計)』の割合が最も高いのは「家庭や子どもを持つと仕事にやりがいがある」26.1%となっている。

図 2-3-2 仕事と家庭との関係



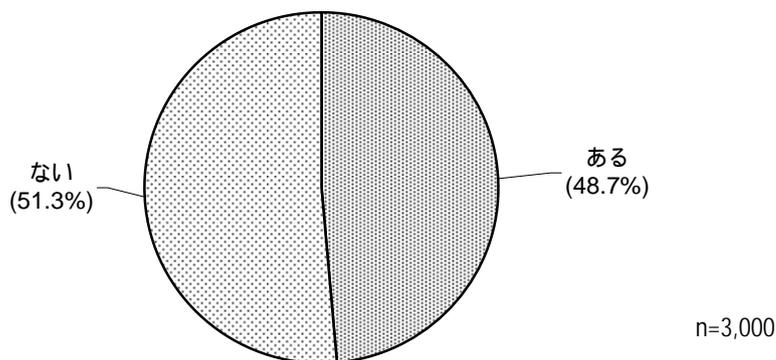
4. 海外での就労について

Q5-1. あなたは、これまでに海外に行ったことがありますか。(1つ選択)

(1) 海外経験

これまでに海外に行った経験は、「ある」48.7%、「ない」51.3%となっている。

図 2-4-1 海外経験



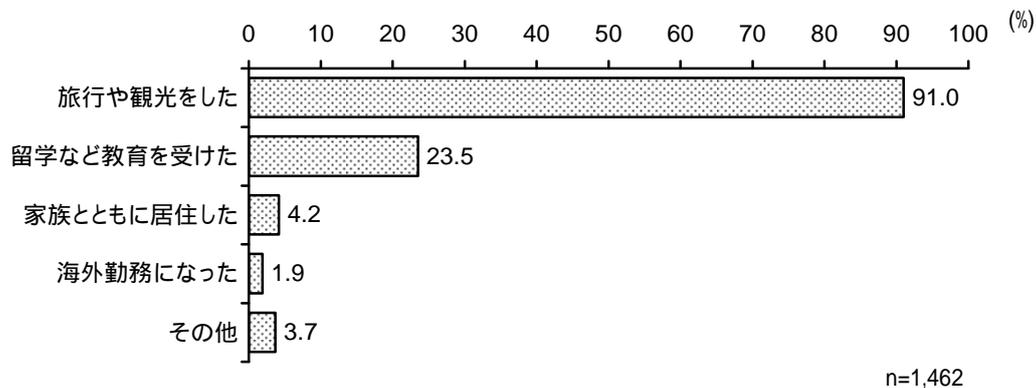
Q5-1で【これまでに海外に行ったことが「ある。」】と答えた方にお伺いします。

Q5-2.主にどのような目的で行きましたか。(複数選択可)

(2) 海外に行った目的

これまでに海外に行った経験のある人の目的は、「旅行や観光をした」が91.0%で最も高く、「留学など教育を受けた」23.5%が続いている。

図 2-4-2 海外に行った目的



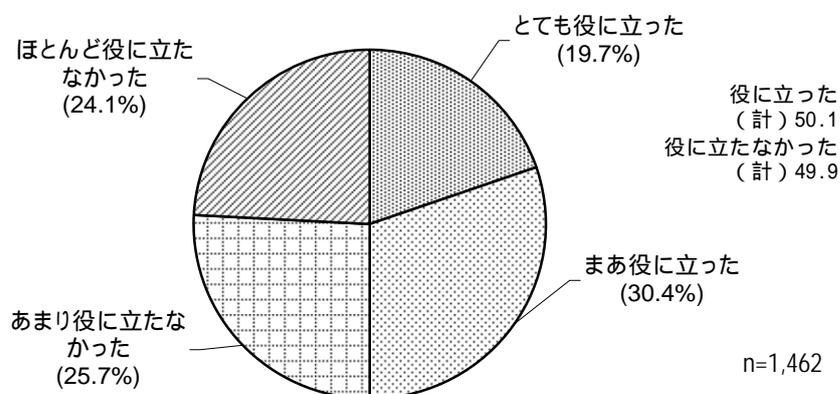
Q5-1で【これまでに海外に行ったことが「ある」】と答えた方にお伺いします。

Q5-3.海外に行ったことが仕事や就職、進学等に役立ちましたか。(1つ選択)

(3) 海外経験の仕事や就職、進学等への効果

これまでに海外に行った経験のある人の、海外経験が仕事や就職、進学等へ及ぼした効果は、『役に立った(計)』(「とても役に立った」+「まあ役に立った」)割合は50.1%、『役に立たなかつた(計)』(「あまり役に立たなかつた」+「ほとんど役に立たなかつた」)割合は49.9%となっており、効果は拮抗している。

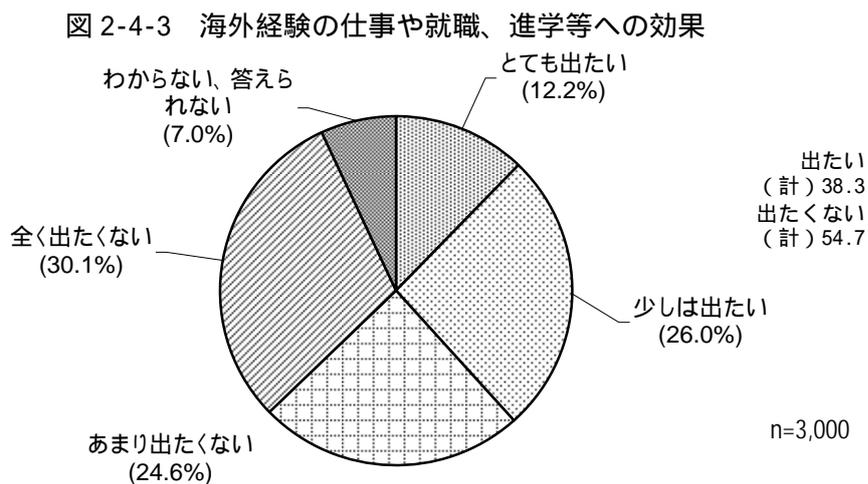
図 2-4-3 海外経験の仕事や就職、進学等への効果



Q6. あなたは、将来、海外に出て働きたいと考えますか。(1つ選択)

(4) 海外での就労意向

将来の海外での就労意向は、『出たい(計)』(「とても出たい」+「少しは出たい」)割合は38.3%、『出たくない(計)』(「あまり出たくない」+「全く出たくない」)割合は54.7%となっている。



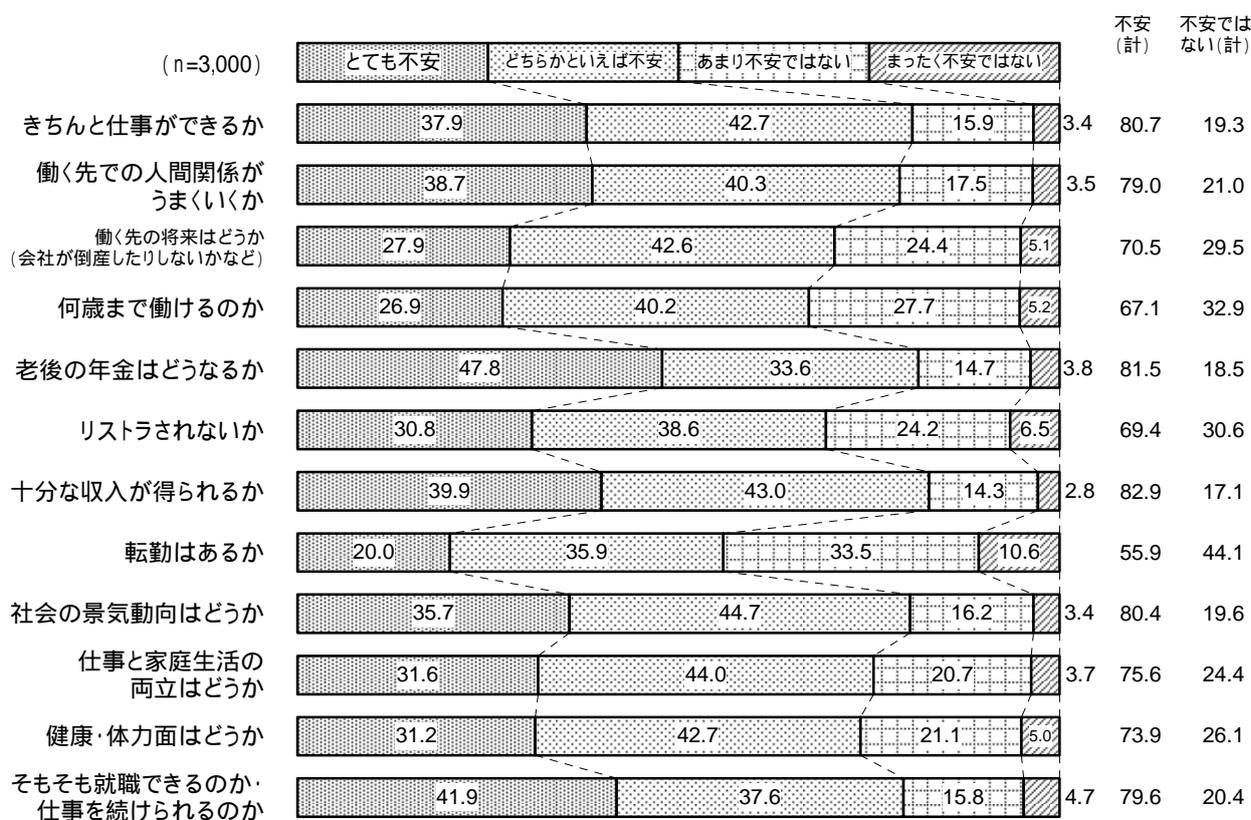
5. 働くことについて

Q7. あなたは、働くことに関して、現在または将来、以下のようなことがどのくらい不安ですか。それぞれについて、とても不安、どちらかといえば不安、あまり不安ではない、まったく不安ではない、のうちから一つ選んで教えてください。

(1) 働くことに関する不安

働くことに関する現在または将来の不安感は、12項目すべてで『不安(計)』(「とても不安」+「どちらかといえば不安」)の割合が『不安ではない(計)』(「あまり不安ではない」+「まったく不安ではない」)の割合を上回っており、「十分な収入が得られるか」82.9%、「老後の年金はどうか」81.5%、「きちんと仕事ができるか」80.7%、「社会の景気動向はどうか」80.4%、「そもそも就職できるのか・仕事を続けられるのか」79.6%、「働く先での人間関係がうまくいくか」79.0%、「仕事と家庭生活の両立はどうか」75.6%、「健康・体力面はどうか」73.9%、「働く先の将来はどうか(会社が倒産したりしないかなど)」70.5%、「リストラされないか」69.4%、「何歳まで働けるのか」67.1%、「転勤はあるか」55.9%となっている。

図 2-5-1 働くことに関する不安

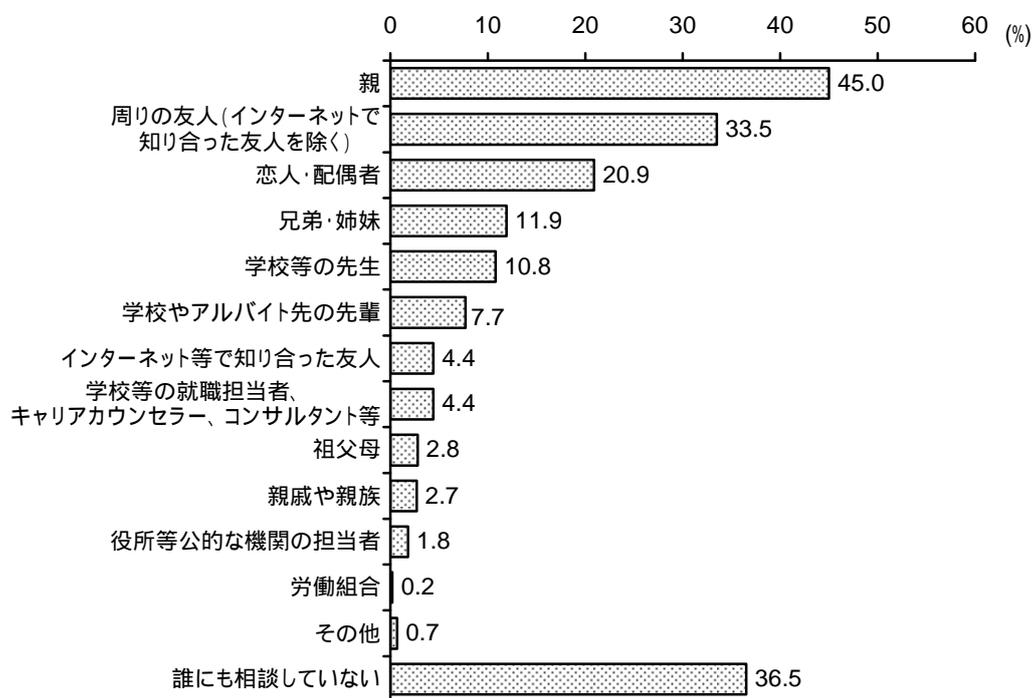


Q8. あなたは、「働くこと」(就職をすることや就職してから働き続けること等を含みます。以下同じ。)の悩み等について、誰かに相談したことがありますか。(複数選択可)

(2) 働くことの悩み等の相談相手

働くことの悩み等についての相談相手は、「親」が 45.0%で最も高く、次いで「周りの友人(インターネットで知り合った友人を除く)」33.5%、「恋人・配偶者」20.9%、「兄弟・姉妹」11.9%、「学校等の先生」10.8%などとなっている。また、「誰にも相談していない」は 3 割半ば程度みられた。

図 2-5-2 働くことの悩み等の相談相手



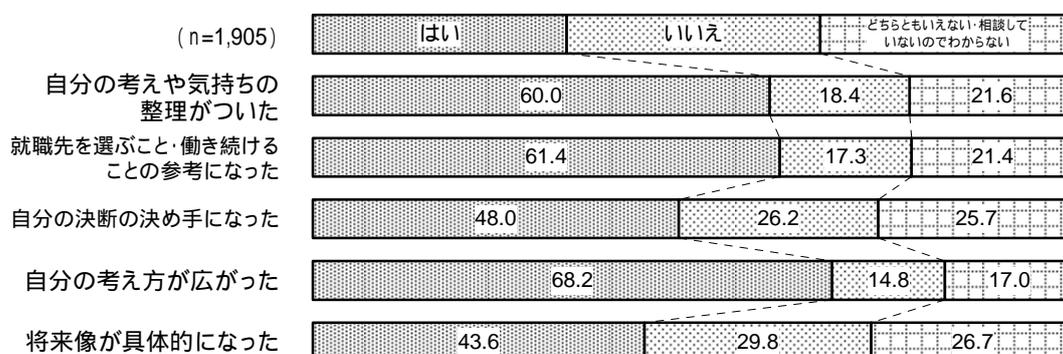
n=3,000

Q9. 相談した結果が次のようなことに役立ちましたか。以下のそれぞれについて、はい、いいえ、どちらともいえない・相談していないのでわからない、のうちから一つ選んで教えてください。

(3) 働くことの悩み等を相談した効果

働くことの悩み等を相談した効果は、3項目で「はい」(役に立った)の割合が過半数を超えており、「自分の考え方が広がった」68.2%、「就職先を選ぶこと・働き続けることの参考になった」61.4%、「自分の考えや気持ちの整理がついた」60.0%となっている。また、「いいえ」(役に立たなかった)の割合は「将来像が具体的になった」、「自分の決断の決め手になった」の2項目で2割台となっている。

図 2-5-3 働くことの悩み等を相談した効果



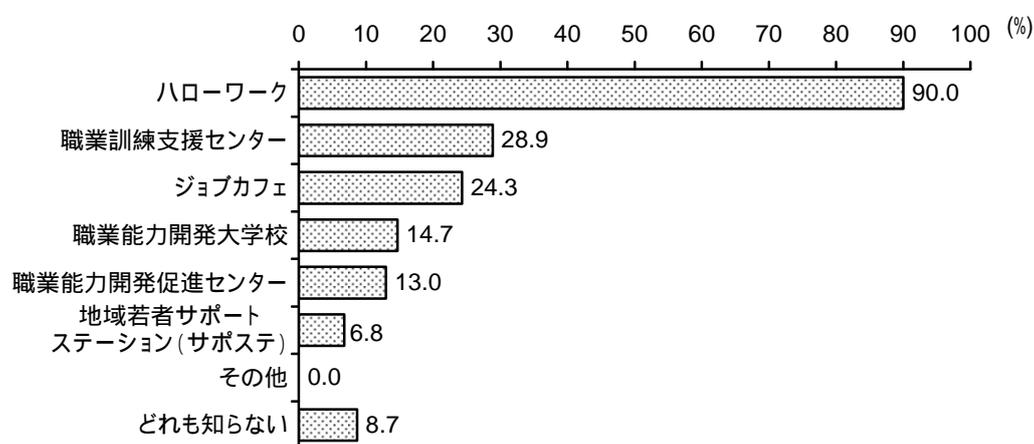
6. 働くための相談機関について

Q10. あなたは、働くことを支援する、役所等の公的な相談機関等があることを知っていますか。知っている公的な相談機関等を選んでください。(複数選択可)

(1) 働くことを支援する相談機関の認知

働くことを支援する相談機関の認知は、「ハローワーク」が90.0%で最も高く、次いで「職業訓練支援センター」28.9%、「ジョブカフェ」24.3%、「職業能力開発大学校」14.7%、「職業能力開発促進センター」13.0%、「地域若者サポートステーション(サポステ)」6.8%となっている。また、「どれも知らない」は約1割みられる。

図2-6-1 働くことを支援する相談機関の認知



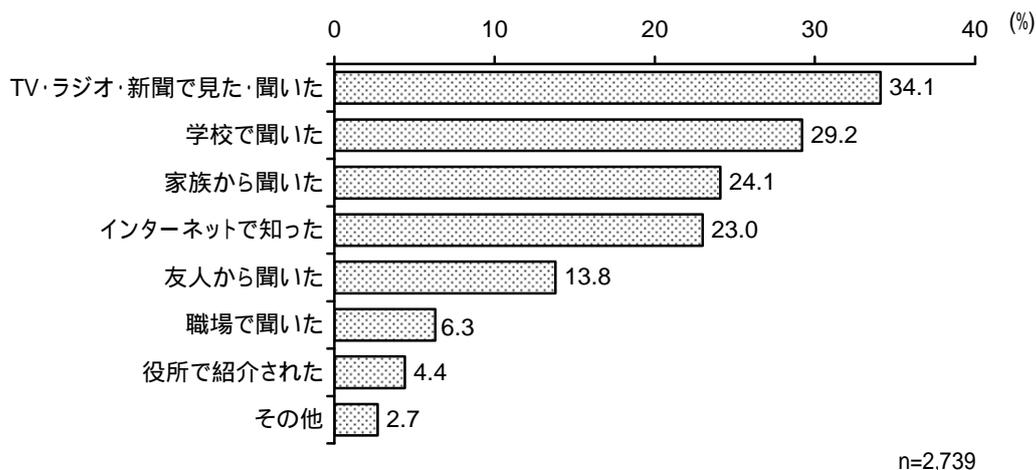
n=3,000

Q11. Q10で選んだ相談機関等について知ったきっかけは何ですか。(2つまで選択可)

(2) 働くことを支援する相談機関の認知経路

働くことを支援する相談機関の認知は、「TV・ラジオ・新聞で見た・聞いた」が34.1%で最も高く、次いで「学校で聞いた」29.2%、「家族から聞いた」24.1%、「インターネットで知った」23.0%、「友人から聞いた」13.8%などとなっている。

図 2-6-2 働くことを支援する相談機関の認知経路

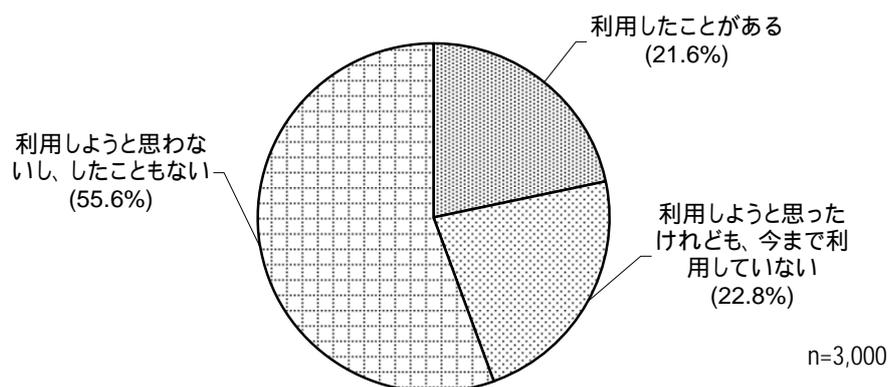


Q12-1. あなたは、働くことに関して、役所等の公的な相談機関を利用したこと、利用しようと思ったことがありますか。(1つ選択)

(3) 公的相談機関の利用状況

公的な相談機関の利用状況は、「利用しようと思わないし、したこともない」55.6%、「利用しようと思ったけれども、今まで利用していない」22.8%、「利用したことがある」21.6%となっている。

図 2-6-3 公的相談機関の利用状況



Q12-1で「働くことに関して役所等の公的な相談機関を「利用したことがある」と回答した方にお伺いします。

Q12-2. 相談機関を利用した結果、どのように役立ちましたか。(2つまで選択可)

(4) 公的相談機関を利用した効果

公的な相談機関を利用した効果は、「就職先を選ぶ参考になった」が60.1%で最も高く、次いで「自分の考えや気持ちの整理がついた」24.3%、「自分の考え方が広がった」22.2%などとなっている。

図 2-6-4 公的相談機関を利用した効果

